



Japan Assistive Products Evaluation Center

(JASPEC)

試験報告書

第25-R057号

依頼者名 : 株式会社YOLO WORLD

依頼件名 : 移動用リフトの性能・強度試験

2026年2月18日付をもって当センターに依頼のありました
事項について報告します。

2026年3月13日

一般財団法人 JASPEC

発行責任者 代表理事 鈴木 寿郎



注意) 書面による承認なく、この成績書の一部のみを複製して使用しないで下さい。

注意) 依頼者から提供されたデータには下線を付しています。

注意) この試験結果は、依頼者が提出した試験品のみに関するものです。

移動用リフトの性能・強度試験報告

受託番号 MH-25089

試験実施日 2026年3月2日(月)

依頼者名 株式会社YOLO WORLD
〒177-0033 東京都練馬区高野台2-8-5

試験場所 一般財団法人 JASPEC
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-5
耐久性能試験場

参考規格 移動・移乗支援用リフト 第6部：立ち上がり用リフト JIS T9241-6 : 2015
手動車椅子 JIS T9201 : 2016
座位保持装置部品の認定基準及び認定基準方法(改定2版)

試験項目 JIS T9241-6:2015
6.性能 6.3 中央懸ちよう点の停止距離

JIS T9201:2016
5.性能 10.2.1 シート耐荷重


座位保持装置部品の認定基準及び認定基準方法(改定2版)
背支持部 後方衝撃試験

試験品 品名 ラクリフト(最大使用者体重:150kg)(写真1)
型式 —
製造番号 —
試験品受領日 2026年2月25日



写真1 試験品

試験室内温度と湿度 温度 : 18℃~19℃ 湿度 : 41%

品質管理者 代表理事 鈴木 寿郎 

試験主担当者 試験評価部長 伊庭 栄樹 

移動用リフトの性能・強度試験結果

1. 移動・移乗支援用リフト 第6部：立ち上がり用リフト JIS T9241-6 : 2015試験 (参考)

1.1 中央懸ちよう点の停止距離試験 (6.3)

試験内容

写真2のように、座面に最大使用者体重150kgのおもり(砂袋)を載せ、最高位置まで座面を上昇させる。座面が座面昇降可動域の中央付近(写真3)に下がったとき、昇降フットレバーから足を離し停止させる。このとき、実際に停止した位置を測定する。測定した距離と座面昇降可動域中央位置の差分が50mm以内であることを確認する。



写真2 中央懸ちよう点の停止距離試験状況

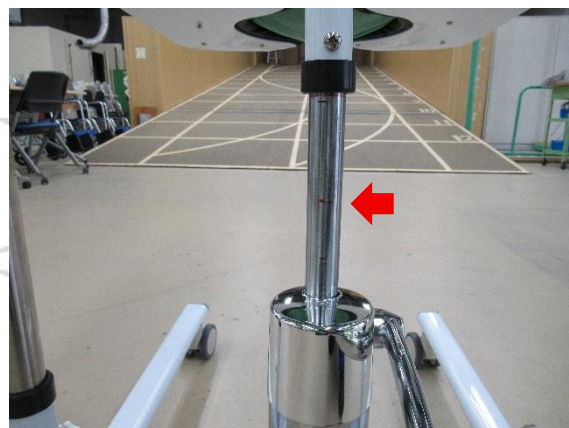


写真3 座面昇降可動域中央位置 (赤矢印箇所)

試験結果

表1に示すように、座面昇降可動域中央と実際に停止した位置の差分を5回測定した平均は5.10mmであった。座面昇降可動域中央と実際に停止した位置の差分は50mm以内であった。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	平均
差分距離 (mm)	4.36	1.95	5.19	5.73	8.28	5.10

表1 座面昇降可動域中央と実際に停止した位置の差分距離

JASPEC

2. 手動車椅子 JIS T9201 : 2016 (参考)

2.1 シート耐荷重試験 (10.2.1)

試験内容

写真4のように、試験品を耐荷重試験機の試験面に固定する。座面を最高位置まで上昇させ、座面中央に質量20kgで縦横300mm×300mmの大きさの砂袋を置き、その上から3600Nを荷重負荷速度15m/m/minで10秒間加える。

試験後、試験品の使用上支障がある変形及び破損、接続部及びねじ固定部のガタツキ、緩みを確認する。



写真4 シート耐荷重試験状況

試験結果

試験後、使用上支障がある変形及び破損、外れはなかった。接続部及びねじ固定部、ボルト類のガタツキ、緩みはなかった。また、座面の昇降も問題なくできた。

3. 座位保持装置部品の認定基準及び認定基準方法 (改定2版) (参考)

3.1 背支持部 後方衝撃試験

試験内容

写真5のように、試験品を衝撃耐久性試験機の試験面に固定する。質量25kgのおもりの重心が背部中央で上端より30mm下方に当たるように設定し、39°の角度から2回衝突させる。

試験後、試験品の使用上支障がある変形及び破損、接続部及びねじ固定部のガタツキ、緩みを確認する。



写真5 背支持部 後方衝撃試験状況

試験結果

試験後、使用上支障がある変形及び破損、外れはなかった。接続部及びねじ固定部、ボルト類のガタツキ、緩みはなかった。